

令和3年4月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和3年4月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

3月29日に、八戸都市圏交流プラザ「8base (エイトベース)」のオンラインショップが開設されました。

地域の事業者が自由に出品できる「モール型」が特徴のショップで、現在、エイトベースに商品を供給する八戸圏域の28社が参加し、八戸せんべい汁やサバ缶、水産加工品、菓子類などを販売しています。

新商品も続々追加予定ですので、みなさま、ぜひご活用ください。

◆オンラインショップのURLはこちら

<https://8base.shop/>

さて、4月1日付けで、当事務所の所長及び事務員が次のとおり変更となりました。令和3年度は、所長の松橋、主幹の川村、事務員の浜井の3人体制となります。

引き続き、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

	新	旧
所長	<small>まつはし たいすけ</small> 松橋 大輔 (旧職名) 総合政策部 市民連携推進課 副参事 (地域連携グループリーダー)	<small>ふるまち ゆか</small> 古町 有加 (新職名) 総合政策部 広報統計課 シティプロモーション推進室長
事務員	<small>はまい あきよ</small> 浜井 章代	<small>かごり きょうこ</small> 籠利 京子

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせください。よろしくお願いいたします。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 4月号 レポート

令和3年3月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	旧八戸シーガルビューホテル再活用へ 複合施設にリニューアル
(2)	東北初 防犯アプリ「まもリン」運用開始
(3)	津波で流失 米国から返還された"奇跡の鳥居"後世に 解説板を設置
(4)	八戸市立市民病院でワクチン接種開始 医療従事者600人を優先
(5)	種差海岸 動画でPR 景勝地11カ所紹介
(6)	「はっち」来館 888万8888人達成
(7)	三陸道 洋野種市-侍浜16キロ開通 八戸-久慈一本に

【産業】

記事	概要
(8)	「青天の霹靂」食パンに 八戸グランドホテルで土日限定販売
(9)	八食センター「くりやランド」新装オープン
(10)	八戸都市圏交流プラザ8baseで「八戸前沖38（さば）ウィーク」開催
(11)	朝市名物 大安食堂の「しおてば」レトルトでデビュー
(12)	八食センターが宅配サービス ～自慢の味、ご家庭へ～
(13)	「ヴァンラーレサヴァ缶」登場 試合会場などで販売
(14)	南部バス バスロケーションシステム導入

【地域】

記事	概要
(15)	県内初 八戸、階上にマンホールのふた「ポケふた」設置
(16)	細川君（長者小6年）制作の図工作品が教科書に掲載

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	南郷アートプロジェクト 10年の節目で幕
(18)	ヴァンラーレ八戸 J2ライセンス申請へ
(19)	ヴァンラーレ八戸 今季初白星
(20)	地域の歴史・文化を紹介するウェブサイト「はちのヘヒストリア」開設

【行政】

記事	概要
(1)	<p>旧八戸シーガルビューホテル再活用へ 複合施設にリニューアル</p> <p>昨年4月に閉館した八戸市鮫町の旧「八戸シーガルビューホテル花と月の渚」の再活用に向け、施設の借り受け希望者を公募していた市は3月4日、SGグループ（本部・同市）の「サンメディックス」を借り受け予定者に選定したと明らかにした。SGグループは青森、岩手両県など5県で医療や介護、教育事業を展開。サンメディックスは、介護福祉用品のレンタルや介護事業所の運営などを手掛けている。今後、宿泊拠点や野外活動などのアクティビティを楽しめる複合施設にリニューアルし、三陸復興国立公園内に立地するホテルの再整備を目指す。</p>
(2)	<p>東北初 防犯アプリ「まもリン」運用開始</p> <p>青森県警は3月8日、スマートフォン用防犯アプリ「まもリン」の運用を開始した。近年、県内では子どもや女性への性犯罪の前兆事案が増加傾向にあり、犯罪の手口も巧妙化していることから、犯罪から自分の身を守る「自主防犯行動」に役立ててもらおうと導入を決めた。主な機能は、事件発生場所などをマップに表示、画面をタップすることで発動する防犯ブザー、現在地からの最寄り警察施設へのルート案内、不審者が目撃された場所に近づいたときのプッシュ通知など。身近で発生した事件や声掛けといった前兆事案の情報をタイムリーに提供し、地域の防犯力向上を図る。防犯アプリの導入は東北初。</p>
(3)	<p>津波で流失 米国から返還された"奇跡の鳥居"後世に 解説板を設置</p> <p>東日本大震災の津波で鳥居の一部が流失し、漂着した米国から返還されたことで鳥居を再建した八戸市大久喜漁港内の巖島神社。太平洋をまたぎ、約7千キロ離れた日本と米国間で生まれた奇跡の物語を後世に残すため、市は3月6日、同神社前に解説板を設置した。鳥居は、震災時の津波で3基が流失したが、2年後の2013年春に米国オレゴン州の海岸に笠木2本が漂着。日米関係者の協力を得て2015年秋に返還、2016年春に再建された。同日、市立大久喜小で除幕式が行われ、出席者が鳥居の返還に尽力した人たちをたたえるとともに、震災の記憶を後世へ語り継ぐことを誓った。</p>
(4)	<p>八戸市立市民病院でワクチン接種開始 医療従事者600人を優先</p> <p>八戸市立市民病院で3月8日、医療従事者を対象とした新型コロナウイルスワクチンの優先接種が始まった。青森県によると医療従事者への優先接種の対象は約4万6千人。ワクチンは3月5日までに市民病院など超低温冷凍庫が設置されている県内5医療機関に5千人分が届けられていた。市民病院には3月4日にワクチンが到着。供給量が限られるため、まずは感染者の対応に当たる医師や看護師ら約600人を対象とする方針とし、3月8日は、このうち約200人に対し、1回目の接種を実施した。2回目の接種は3週間後の予定とした。</p>
(5)	<p>種差海岸 動画でPR 景勝地11カ所紹介</p> <p>八戸市は3月18日、三陸復興国立公園の種差海岸の魅力発信に向け、景勝地11カ所を紹介するガイド動画を作成したと発表した。日本語版と英語版の2種類あり、YouTubeの「八戸市観光課チャンネル」で閲覧可能。動画で紹介する景勝地は蕪島、葦毛崎展望台、中須賀、白浜、淀の松原、種差天然芝生地など。いずれも、長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」のルート上にQRコード標識を設置しており、観光客らがスマートフォンで読み取って動画を見ることもできる。新型コロナウイルスの収束後を見据えて観光客の受け入れ環境を整え、国内外からの誘客促進を図る。</p>

(6)	<p>「はっち」来館 888万8888人達成</p> <p>「はっち」の来館者数が3月19日、888万8888人を達成した。はっちは、2011年2月11日に開館。来館者数は年間約80万～90万人台で推移し、2012年3月に100万人、2016年6月に500万人を超え、オープンから約10年を経て「8」が並ぶ節目の日を迎えた。記念の来館者となったのは、市立城下小6年の一二三（ひふみ）華月さん。この日は小学校の卒業式だったという一二三さん。はかま姿で母親と一緒に来館すると、職員らに拍手で迎えられた。1階のエントランスで記念セレモニーが開かれ、一二三さんに花束と記念品が贈られた。</p>
(7)	<p>三陸道 洋野種市-侍浜16キロ開通 八戸-久慈一本に</p> <p>国が東日本大震災の復興道路と位置付ける「三陸沿岸道路」の洋野種市インターチェンジ（IC）-侍浜IC間（延長16キロ）が3月20日、開通した。これにより、八戸市と久慈市間の約50キロが自動車専用道路でつながり、両市間（八戸市庁と久慈市役所起点）の移動時間は約50分となった。今回の開通で、三陸沿岸道路全体では、計328キロが開通済みとなり、事業の進捗率は91%に達した。残すは久慈-普代の区間などで、同道路は年内に全線開通する見通しとなっている。</p>

【産業】

記事	概要
(8)	<p>「青天の霹靂」食パンに 八戸グランドホテルで土日限定販売</p> <p>八戸グランドホテルは、特Aランクの青森県産米「青天の霹靂」の米粉を使った食パン「米プレミアムパン八八」を開発し、土日限定で販売を始めた。時間をかけた製法でうま味を凝縮し、もちり感やしっとり感が強いパン生地に仕立てたのが特長。世界自然遺産・白神山地で発見された「白神こだま酵母」を使用し、県産リンゴ果汁を加えて風味を調整した。商品名の「八八」は、「米」の漢字を分解すると「八十八」になり、「米作りには88回の手間がかかる」との言い習わしから名付けた。八戸を代表する土産品に育てたいという思いも込め、未広がり縁起の良い八を重ねて表現した。商品は2斤サイズで価格は税込み1188円。3、4月は土日に各日20個限定で販売する。</p>
(9)	<p>八食センター「くりやランド」新装オープン</p> <p>八食センターは厨スタジオ2階にある子ども向けの遊び場「くりやランド」を全面改装し、3月18日にリニューアルオープンさせた。「忍者」をテーマにした大型の複合アスレチック遊具などを新たに導入。「屋内で外遊び」をコンセプトに、伸び伸びと遊べる環境を整えた。対象年齢は小学2年生以下で、1歳以上の利用料は45分500円。入会費・年会費無料のメンバーズに加入すれば300円となる。1歳未満や保護者らは無料。現在は市場棟にあるトイレの改修も進めており、家族で八食を満喫できる環境を整えて子育て世代の集客アップを図る。</p>
(10)	<p>八戸都市圏交流プラザ8baseで「八戸前沖38（さば）ウィーク」開催</p> <p>限定メニューの提供などを通じて首都圏に八戸前沖さばをPRする「八戸前沖38（さば）ウィーク」が、東京・内幸町の八戸都市圏交流プラザ「8base（イトベース）」で3月8日から14日まで開催された。王道の食べ方である串焼き、締めさば、棒ずしを一度に楽しめる「王鯖トリオ定食」（税込み1200円）とオプションでせんべい汁が付くセット（1400円）、地酒3種セット（2200円）の三つを用意した。来店客が八戸を代表する食の魅力に触れていた。</p>

(1 1)	<p>朝市名物 大安食堂の「しおてば」レトルトでデビュー</p> <p>国内最大規模を誇る、八戸市の館鼻岸壁朝市に出店する「大安食堂」(同市)は、手羽先唐揚げのレトルト食品「しおてば てば次郎」を3月11日から販売している。「しおてば」は朝市で長蛇の列ができる人気商品だが、てば次郎は衣を薄くし、肉のうま味を楽しめるのが特長。てば次郎は元々、揚げたての総菜として、しおてばに次ぐ商品を目指し10年前から開発が進められてきたが、東日本大震災の発生や朝市の開幕延期などで苦しい経営が迫られ、商品化は一時ストップした。だが、店主の荒澤さんには「しおてばを通じて朝市と人々をつなげたい」との思いが芽生え、レトルト商品としてついに「デビュー」を迎えることとなった。値段は1本150円(税込み、希望小売価格)。同市新湊の店舗と館鼻岸壁朝市の出店でのみ販売する。</p>
(1 2)	<p>八食センターが宅配サービス ～自慢の味、ご家庭へ～</p> <p>八食センターは2月下旬から、商品の宅配サービスを展開している。海産物や加工品、総菜・弁当、菓子など各店舗が販売する約70品を取りそろえ、南郷地区を除く市内全域に配達する。商品の一覧を載せたパンフレットを作成し、施設内で配布。商品は税込み価格で記載し、お祝い用のすし、刺し身の盛り合わせ、スイーツ、花束なども用意した。特に企業から弁当類の注文が多く、リピーターも増えているという。配送料は一律350円とし、購入金額が総額3千円以上であれば無料となる。新型コロナウイルス禍で顧客の来店頻度が減少する中、八食自慢の商品を各家庭や職場に届け、需要の掘り起こしを図る。今回のラインアップは3月30日までだが、4月以降も商品を見直して継続する。</p>
(1 3)	<p>「ヴァンラーレサヴァ缶」登場 試合会場などで販売</p> <p>サッカーJ3のヴァンラーレ八戸と、八戸市の水産加工業「三星」がコラボレーションし、サバの水煮缶「おらほの街ヴァンラーレサヴァ缶 鯖缶」を商品化した。八戸の食とチームのPRを目的に、ヴァンラーレがパートナー企業の三星に働き掛けて出来上がった。原料に八戸産の旬のサバだけを使用し、味付けは素材本来の風味を生かすため食塩のみ。機械を使わず、手作業で丁寧に缶に詰めることで、切り身の形を崩さず、見た目にも美しい仕上がりとなっている。限定500個で、価格は500円(税込み)。4月以降のホーム、アウェイ戦会場などで販売する。</p>
(1 4)	<p>南部バス バスロケーションシステム導入</p> <p>岩手県北自動車(盛岡市)は「南部バス」の路線バスにバスロケーションシステム(バスロケ)を導入し、サービスを3月29日に開始した。利用客がスマートフォンなどでバスの現在地や停留所への到着予測時刻、渋滞による遅延情報といったリアルタイムの運行状況を把握できるようになり、利便性の向上が期待される。今後は、岩手県北自動車南部支社(八戸市)が青森県内で運行する高速バスやコミュニティーバス(臨時バスなどは除く)についても、バスロケを順次導入する予定。</p>

【地域】

記事	概要
(1 5)	<p>県内初 八戸、階上にマンホールのふた「ポケふた」設置</p> <p>人気キャラクター「ポケットモンスター」をあしらったマンホールのふた「ポケふた」が3月13日、青森県内で初めて八戸市と階上町に設置された。ポケットモンスターのブランドを管理する会社「ポケモン」(東京)が2018年から全国で展開する事業の一環。今回は東日本大震災から10年の節目を機にポケふたが贈られた。八戸では、蕪島海浜公園内の蕪嶋神社付近の歩道にお目見え。うみねこポケモンの「キャモメ」や、いわて応援ポケモンの「イシツブテ」がデザインされている。階上のふたには、うにポケモンの「バチンウニ」などが描かれており、「道の駅はしかみ」に設置された。同日、八戸市の蕪島海浜公園でお披露目式が開かれ、地元関係者らが観光振興に期待を寄せた。</p>

(16)	<p>細川君（長者小6年）制作の図工作品が教科書に掲載</p> <p>日本文教出版（東京）が昨年度発行した図画工作の教科書に、八戸市立長者小6年の細川泰誠君が2年生の時に制作したカメの作品が掲載された。同社は教科書制作に役立てるため全国各地の展覧会などで優れた作品を収集しており、当時小学2年生だった細川君の作品は、市の図画工作展を取材した際に見つけた。掲載作品は教科書を見た児童に創作上のヒントを与えられるような作品を選んでいるといい、細川君の作品は「袋を結んだ部分を頭に見立てたり、甲羅に貼った紙の色を場所によって変えたりと、こだわりが伝わってきた」（担当者）という。図工の教科書は上下巻構成となっており、細川君の作品が掲載されたのは低学年の下巻。本年度から各学校で使われる予定だという。</p>
------	---

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p>南郷アートプロジェクト 10年の節目で幕</p> <p>八戸市南郷の魅力を発信する「南郷アートプロジェクト」が10周年の節目をもって幕を閉じた。2011年に市主催でスタートし、アーティストと地域住民が交流しながら、ヒマワリ畑でのダンス公演や捕鯨をテーマにした演劇を発表し、地域の魅力を発掘してきた。首都圏で活躍するアーティストを招き、地域の自然や文化とコラボしながら、ダンスや演劇を届けてきたプロジェクトは、3月6、7日に市南郷文化ホールで上演された「DANCE×JAZZ Episode.0-ジャズの里 南郷」でラストステージを迎えた。</p>
(18)	<p>ヴァンラーレ八戸 J2ライセンス申請へ</p> <p>八戸市をはじめ青森県南地方16市町村をホームタウンとするサッカーJ3のヴァンラーレ八戸が今年、次のステージに昇格するために必要なJ2ライセンスを、「例外適用規定」を利用してJリーグに申請する方針であることが分かった。ヴァンラーレがホームとする八戸市のプライフーズスタジアムはJ2ライセンス取得に当たって、現時点で、入場可能数1万人以上、観客席を屋根で覆う、ナイターが開催可能な夜間照明などの施設条件を満たしていないが、照明設備は近く完成予定となっており、これに伴って、その他の条件整備を猶予する「例外適用申請」が可能になるという。県内のクラブとして初めてJ3に昇格して3年目を迎え、次のステージへ新たな一歩を踏み出す。</p>
(19)	<p>ヴァンラーレ八戸 今季初白星</p> <p>サッカーJ3のヴァンラーレ八戸は3月28日、八戸市のプライフーズスタジアムでアスルクラロ沼津との今季ホーム開幕戦に臨み、昨季は2戦2敗だった相手に1-0で土をつけ、開幕3戦目で今季初白星を挙げた。昨季のホーム開幕戦は新型コロナウイルスの影響で無観客だったため、有観客では2年ぶり。会場には開幕戦を待ちわびた1367人が来場し、声を出しての応援が制限される中、カスタネットや手拍子で選手たちを鼓舞した。先制や試合終了の瞬間は大きな拍手に包まれた。</p>
(20)	<p>地域の歴史・文化を紹介するウェブサイト「はちのへヒストリア」開設</p> <p>八戸地域の文化財や絵画、人物などにスポットを当て、歴史・文化を総合的に紹介するウェブサイト「はちのへヒストリア」が3月29日、開設された。八戸クリニック街かどミュージアムの小倉学館長と青森県文化財保護協会の滝尻善英副会長、八戸工業大の川守田礼子准教授が主体となって着手。市教委と市内の美術館、博物館、是川縄文館、図書館からの協力を得て、幅広い文化財のデータが集まった。国内と同地域の歴史が比較できる年表のほか、300点を超える文化財の画像と学芸員による解説を楽しめるのが特徴で、学校現場や観光にも役立ててもらおうのが狙い。サイトの制作は3カ年計画で、今後も内容を充実させていく。</p>

ふるさと寄附金のご案内

「ふるさと寄附金」とは、市内外を問わず、「八戸を応援したい」という方々から広くご寄附をいただく制度です。これまで納めてもらっていた税を「ふるさと寄附金」に振り替えていただくことで、直接、寄附者の意向を八戸のまちづくりに反映することが可能となります。

- ◆ 寄附金の使いみちをお選びいただき、「震災復興基金」「奨学ゆめ基金」などの基金積立や、教育・福祉・環境などの各種事業に充てることができます。
- ◆ 寄附をされた金額のうち2,000円を超える分について、一定限度まで住民税の税額控除がうけられます。
- ◆ 法人・団体からの寄附も受付しています。法人の場合、地方公共団体に対する寄附金は全額が損金算入できます。
- ◆ 寄附をいただいた個人の方には、金額に応じて、八戸せんべい汁セットやいちご煮セット、サバ缶セット、南郷そば・つゆセットなどの特産品を進呈いたします。
- ◆ 総務大臣からの通知（平成29年4月1日付け総税市第28号）を踏まえ、平成29年7月から、八戸市内在住の方へのお礼の品の進呈を取りやめることとしております。

①10,000円以上 30,000円未満 …特産品Aから1品（①のうち、10,000円～15,000円は金額に応じて1品）

②30,000円以上 50,000円未満 …特産品A～Bから1品

③50,000円以上100,000円未満 …特産品A～Cから1品

④100,000円以上 ………………特産品A～Dから1品

詳しくは、八戸市ホームページ内「八戸市ふるさと寄附金について」をご覧ください。

お申し込み方法

インターネット ⇒ふるさとチョイス (<https://www.furusato-tax.jp/city/product/02203>) または
楽天ふるさと納税 (<https://www.rakuten.co.jp/f022039-hachinohe/>) からお申込みください。

郵送・ファックス ⇒「ふるさと寄附金申込書」に必要事項を記入して、八戸市広報統計課へ送付してください。
「ふるさと寄附金申込書」は郵送でお届けしますので、八戸市広報統計課までご連絡ください。
申込書は八戸市ホームページからもダウンロードできます。
※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

< 宛先 > 〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1 八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

TEL : 0178-43-2319 / FAX : 0178-47-1485 / Email : furusatotax@city.hachinohe.lg.jp

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお立ち寄りください。

八戸市東京事務所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館 5階

TEL : 03-3261-8973 / FAX : 03-3239-6723 / Email : tokyo@city.hachinohe.lg.jp

所長 松橋大輔 主幹 川村幸男 事務員 浜井章代